

- 管内 檜山管内
- 分類 防犯教室 安全マップ 不審者対応訓練 その他（ ）
- 教育課程 教科（ ）科 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 警察署と連携し、体験的な活動（不審者の見取り体験・護身術）等を実施
- 生徒の登下校時等における安全行動など、危機回避能力の育成
- 教職員の不審者への対応や生徒の安全確保に向けた共通理解

取組の実際

ねらい

- 不審者への対応を学び、有事の際の適切な行動を知る。
- 危機的状況の際に適切に行動しようとする意識の向上を図る。

内容

1 基本的な不審者対応の方法（1回目）

○ 不審者対応訓練

1回目の防犯教室では、不審者に遭遇した場合には、身長、体型、服装などの特徴を覚えておくこと（見取り）の必要性やその困難さなどについて体験を通して学習した。

<不審者の見取り体験>

- ・各学年ごとに不審者を見取る役を決める。
- ・不審者に扮した警察官が体育館に入場し、見取り役の生徒に話しかけるなどした後、退場する。
- ・見取り役の生徒は、聞き取り役の教師から不審者の特徴等の質問を受ける。
- ・全体で不審者の特徴等を確認する。

性別や身長、体型、髪型、帽子の有無など、不審者の特徴を見取る観点について確認した。



2 危機的状況での護身術（2回目）

○ 不審者と遭遇した場合の心構え

2回目の防犯教室では、不審者に遭遇した時の心構えや、実際に腕をつかまれた時の対処法について、警察官による実演などによる演習を通して学習した。

<心構え>

- ・不審者とは対峙せずに逃げるなど、身の安全を第一に考える。
- ・相手から一定の距離をとる。
- ・腕などをつかまれたら、大きな声で助けを求める。
- ・人が多くいると思われる方向に逃げる。

スクリーンに写真や動画を投影し、生徒がそれらを繰り返し確認しながら演習できるようにした。



成果と課題

- 不審者対応の難しさや必要性を知るとともに、日常生活の中の危機を察知するなどにより自らの身を守ろうとする意識を高めることができた。
- 警察などの関係機関や地域と連携し、自校の防犯マップを基に不審者が潜みやすい場所を確認するなど、安全教育の一層の充実を図る必要がある。